

技術職員のみなさんへ

前理事(総務・財務担当)・副学長
横山 正樹

私は平成 26 年 4 月に理事に就任にして以来、毎年技術報告書に寄稿させていただきました。この 3 月末で理事を退任したことから、今回が最後の執筆となります。私は毎回この場を借りて、技術職員の役割の重要性を指摘し、そのための処遇の改善について提案してきました。

私は理事在任中、組織の活性化のためには構成員が意識を持って職務に打ち込むことができる環境の整備が不可欠との認識を持ち、様々な改革を進めてきました。教員・事務職員・技術職員等大学の構成員は様々で役割も異なります。したがって、処遇の改善を図るためには各々の職務内容等を確認し、それに見合った対応が求められます。技術職員について検討した結果、一口に技術職員といっても様々な職務があり、培ってきた経験も人によって違いがあることを知りました。そこで考えたことが、個々人に応じた対応だったのです。具体的には、教育に携わる者への手当の新設、経験等を活かしたキャリアパスの複線化でした。小さな一歩かもしれませんが、少しは前に進むことができたのではないかと思っています。

少子高齢化等社会構造が大きく変化する中、国立大学もそれに合った対応が求められています。その柱となるものは教育研究の高度化と大学運営の効率化であると思います。今後様々な動きが出てくるとはありますが、何も不安がることはありません。どこにも負けない教育研究が展開できれば良いわけで、その担い手となるのが技術職員のみなさんなのです。

技術職員のみなさん一人一人には、すばらしい特技、職人芸とも言える持ち味があります。それに磨きをかけることが、岐阜大学の教育研究が発展していくことにつながると確信しています。そのためにも「勇気」を持って自らの「可能性を追求」し続けてください。これが私からみなさんへの最後のエールです。